# 資料 5

生活科単元構成例

(小学校1年生4月~7月)

いちねんせいになったよ

4月(全4時間)

資料5



# 【児童の学びのストーリー】

「ついに1年生になれた」という喜びと新しく始まる学校生活に対して大きな期待に満ちあふれている子子供達。一方では「どんなことするのかな」、「みんなと一緒にできるかな」という未知への不安と自分自身への不安ももっている。期待感と安心感を高め、不安感を軽減することが小学校生活のスタートとして大変重要である。これから始まる学校生活に向けて、「安全に家までたどりつく」ために、下校の道のりにおける注意事項を考えることができるように進めていく。さらに「楽しく学校で過ごす」ために友だちと関わる方法について気付いていけるようにする。

ſ	知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
	(豊かな言葉と表現する)	(社会に目を向けよりよく考える)	(目標を持って進んで学ぶ)
		登下校において, 友達や地域の方と挨拶したり, 危険を回	
		避しながら安全に歩いたりすることができるとともに、学校	
		内の生活において、友達と楽しく関わったり、約束を守りな	
		がら時間ごとのめあてに沿って活動したりすることができ	
	あると気付くことができる。	<b>ీ</b>	

ねらい	時数   主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点	評価基準(目指す子どもの姿)
1 げんきにがっこうにいけるかな 学校までの道のりには自分の学校生活が明るくなるように楽しみにしている人がたくさんいることに気付き、学校へ意欲と安心感をもって登校することができる。	<ul> <li>1 家から学校までの道のりにおいては、多くの人との出会いや、様々なものがあることを知る。</li> <li>おうちとがっこうはどこかな? きいろのふくをきたひとは、なになのかなあ?</li> <li>2 「できるかな」を見て登校前に自分でできるかどうか考える。</li> <li>おはようといったよ。 じぶんでおきたよ。</li> <li>3 翌日からの登校を職員全員が心待ちにしていることを伝え、学校へ行きたいという気持ちを高める。</li> <li>はやくあしたにならないかなあ。</li> </ul>	・安心して学校生活がスタートできるように学校体制の中で全教職員が関わるようにする。(かかわり) ・2日目を心待ちにして下校できるように、教室環境を整えること、初日の授業を2日目への期待につながるように声かけする。(意欲)	【学びに向かうカ・人間性等】 学校までの道のりには、自分の学校生活 が明るく、楽しみになるような人がたくさん いることに気付いている。
2 がっこうのいちにちはどうなっているのかな 学校の1日の生活の流れについて知り、意欲と安心感をもって学校生活を送ることができる。	1 学校の1日の流れについて知る。 2 これまでの生活と比較しながら時間ごとにするべきことがらと、そこで「頑張ること」、「気をつけることることに気づかせる。	・一日の学校生活の流れがわかり、絵や写真、図等の掲示物を使って、視覚的に分かりやすく説明する。(自立)・小学生になったという意欲や期待感をを引き出し、高めるためにも「自分からする」「自分でする」姿を、認めて賞賛する。(意欲)	【知識や技能の基礎】 学校生活に関心をもち、生活リズムをつく ろうとしている。
3 あんぜんにきをつけてかえれるかな 危険な場所や人などに対して適切に行動して、安全に帰宅することができる。	1 学校から家までの下校の道のりについて、安全に気をつけて帰るための行動を考える。 2 いろいろな「危ない場面」があることに気づき、「危ないこと」と「どうすればよいか」をつなげて考える全な場所」も見つける。	・教室ではお互いに安全な行動をとるための話し合いをさせ、実際の下校に付きそう中で、安全に気を付けながら下	【思考力・判断力・表現力等の基礎】 学校から家までの道のりのなかにある危 険に対してどうすればよいかを考え、適切 な行動をしながら帰宅することができる。
4 なかよくあそべるかな 友達の顔・名前を覚え、約束を守りながら友達と仲よく遊ぶことが できる。	1 同じ学級での友達関係に関心をもち、もっと仲よくなろうという意欲を高める。 2 いろいろな遊びがあることに気付き、たくさん遊んでもっと友達を増やしたり、仲よくなったりしようと気持ちを高める。 3 ルールを守りながらみんなで遊ぶ。 うんどうじょうであそびたいな。なにをしてあそぼうか  ○ ちゃんとあそんだよ。たのしかったよ。 47	・友達と関わることに関心をもち、ルールを守りながら仲よくのびのびと遊ぶことができるように支援する。(かかわり)・大達づくりに対して安心して取り組める子供と、不安を抱く子供とが混在していることを意識しながら支援する。(自立)	【知識や技能の基礎】 友達に関わることに関心をもち、仲よく楽し くのびのびと遊んでいる。

#### がっこうと ともだち(全13時間) 4~5月



単元のねらい
・学校を探検したり、学校で働く人々と関わったりしながら、学校内に部屋やものとその役割など学校で働いている人々と学・・(1) その仕事に気付き、自分も学校の一員であることを感じて楽しく安全に学校生活を送ることができるようになる。また、その経験をもとに学校の周りにも目を向けることができるようになる。

**対…(1)**・道徳 4(1)(4)

- ・ 国語「あさ」「なんていおうかな」「どうぞよろしく」
- ・音楽「はくをかんじてりずむをうとう」
- ・図工「すなやつちとなかよし」「すなやつちでねんど」

合科・関連する教科

・体育「固定遊具をつかった運動遊び」

#### 【児童の学びのストーリー】

めることができる。

学校生活に慣れ始め、自分の教室の外へと目が向き始めた子供達は、体験入学などの経験から、「知っているよ」「行ってみたいな」の思いが膨らんできている。「学校を探検しよう」と呼びかけることで、行きたい教室や活動の約束も進んで考える。探検での発見は、友達に教えたくて、絵やお話の表現につながっていく。「もう一度行きたい」「今度は〇〇へ探検したい」と思いは広がり、校庭や近くの公園へと活動の場を広げていくことで、学校生活で必要なルールを身につけ、自信を深めていく。

知識や技能の基礎 (豊かな言葉と表現する)

・学校探険を通して、学校での生活 はいろいろな人や施設と関わってい ることが分かる。 思考力・判断力・表現力等の基礎 (社会に目を向けよりよく考える) ・学校の施設の様子を知り、学校生

|設定する。(かかわり)

・学校の施設の様子を知り、学校生 ・学校 活をささえている人々の思いや願い て関れ について考えることができる。 学びに向かう力・人間性等 (目標を持って進んで学ぶ)

・学校の施設を通して、先生友達などに親しみや関心をもって関わり、楽しく生活しようとする。

ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点	
1 がっこうたんけんにいこう 学校の中の場所や人、部屋の意味、場所ごとのマナーに気付き、 安心して学校生活を送ることが できる。	4	1 学校で行ってみたい場所NO1を決める。(いってみたい場所はどこか発表し合う。) 【学校探険への意欲付け】 2 行ってみたい場所NO1から学校全体を回り、他学年の教室、特別教室やいろいろな特徴ある場所の存在と、そのおおよその位置を知る。 ここは何のお部屋かな? 先生の部屋はどこだろう?学校中を探検してみたい! 3 その場の特徴あるものを見つけたり、体験したり、関係ある人に話を聞いたりする。 4 友達の話を聞いて気になった場所に行ってみる。 本のお部屋をみつけたよ。入ってみたいなあ。外国の先生とお話したよ。もっと見てみたい!	・学校での基本的な生活 身につくように繰り返して 伝える。(自立) ・いつでも子供たちが安心 援を求められるような、声 雰囲気、環境を整える。(	:丁寧に ひして支 ! かけや ■
2 こうていもたんけんしてみよう 校内の動植物とふれあったり、 校庭の遊具や施設などを正しく 使ったりすることができる。	4	<ul> <li>1 校庭でのお気に入りの場所NO1を決める。【校舎探険から発展させ、校庭でもお気に入りの場所をさがすという意欲を高める。】</li> <li>2 安全に気を付け約束を守りながら、気になる場所で遊んだり、人や動植物と関わったりして「校庭のお気に入りの場所」をつくる。</li> <li>○○がよかったよ。友だちにも伝えたいなあ。もっと学校を知ってみたい!!</li> <li>3 探険の結果を発表し合い、校舎内、校庭を含めてお気に入りの場所をまとめていこうとする意欲を高める。</li> </ul>	・学校のルールや決まりないに指導する。(かかわり・学校の周りの自然に親り、友達と一緒に植物をすするために環境を整える)	り) しんだ 育てたり
3 たんけんしたことをみんなではなそう 見つけたものや気付いたことを 教え合うことを通して、学校への 愛着や学校生活への自信を深 めることができる。	2	1 書きためてきたカードや、発表を書いた流れ図などから探険についてまとめていこうという意欲を高める。 2 思い出を想起し、話しながらカードを学校マップにはっていく。 3 話し合いから気付いたことをまとめるとともに、学校探険をしてよかったことを発表し合う。 いろいろな先生がいてびっくりしたよ。早くお兄さんやお姉さんになって家庭科室をつかってみたい!	・学んだことを自分の言葉表現できるように支援するに、互いに学び合える場合する。(意欲)・自分の思いや意見を授でのペアやグループ学習に表現できるような環境意大する。(言葉・表現)	るととも の設定を 業の中 3等で常
4 がっこうのまわりをあるいてみ よう 見つけたものや気付いたことを 教え合うことを通して、学校への 愛着や学校生活への自信を深	3	1 学校マップを振り返り、学校の周りにも行ってみたいという意欲を高める。 2 いくつかのルートに分け、その通学路を使う子どもが好きな場所を説明しながら学校の近くを歩いてみる。 3 学校探険の時と同様、マップにカードを置きながら、お気に入りになった場所、がんばったことを発表していく。	・どの子供も自信をもって 動ができるように、発表し のよかったところなど全体 認める。(言葉・表現) ・授業のまとめや振り返り でお互いのよさを認め合	た子供 本の前で りの場等

#### 評価基準(目指す子どもの姿)

#### 【知識や技能の基礎】

学校内の施設や人々に関心をもっていろいろな場所へ行き, 興味深く見たり, 人と話したりしている。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

学校内の場所ごとのルールを守って行動したり、礼儀正し く話したりしながら、部屋にある物やいる人、部屋の目的な どを調べている。

【学びに向かう力・人間性等】

学校のなかの場所や人、部屋にあるものや部屋の目的、 場所ごとのマナーに気付いている。

#### 【知識や技能の基礎】

校庭の動植物や遊具・施設に関心をもっていろいろな場所へ行き、興味深く動植物と接したり、遊んだりしている。 【思考力・判断力・表現力等の基礎】

動植物に優しく接したり、ルールを守って遊具や施設を使用したりしている。

【学びに向かう力・人間性等】

校庭にあるものやその場所,動植物との関わり方やものの 使い方に気付いている。

#### 【知識や技能の基礎】

見つけたもの・こと・人のことを先生や友達に意欲的に話したり、友達の話を聞こうとしたりしている。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

見つけたもの・こと・人のことをわかりやすく伝えるために言葉や動作で発表している。

#### 【学びに向かう力・人間性等】

学校の中の場所や人, 部屋にあるものや部屋の目的, 校庭にあるものや自然, 場所ごとのマナーについて気いている。

#### 【知識や技能の基礎】

通学路にある自然や人々, 安全を守るための施設などに 気付く。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

みんなで歩いて発見したことや、自分の地域のお気に入り の自然や人などについて、わかりやすく伝えるために言葉 や動作で発表している。

【学びに向かう力・人間性等】

通学路の自然や人、安全を守る施設などに関心をもってさ がしながら、みんなで歩いたり、自分の地域を見直したりし ている。

こんど○○の場所にいってみたいなあ。○○小学校のことがもっと好きになったみたい!!

ひとつぶのたねから 5月~9月(全10時<u>間</u>)



学習内容 単元のねらい 合科・関連する教科 ロ付・関連する教科
・プール開き
・道徳「なにをしているのかな」「ぞうさんとおともだち」
「あとかたづけ」
・国語「ぶんをつくろう」
・算数「こうえん」
・音楽「うたでなかよしになろう」「うたでさんぽ」
・図画工作「せんせいあのね」 身近な植物に興味・関心をもち、それらに生命があることに気付くとともに、植物を大切にすることができるようにする。 学…(3) 身…(<mark>4)(5)(6)</mark> 自…(9)

【児童の学びのストーリー】
子供たちは幼児期より家庭や幼稚園・保育所(園)で様々な植物の栽培を経験してきている。小学校へ入学してこれまでの栽培や遊びの経験を十分にいかして、継続的な栽培活動をする過程で様々な気付きが生まれ、権物の変化や生長の様子に関心をもつことができるようになる。またその栽培活動の中で「もっと元気に育ってほしい」「花をたくさん峡かせてほしい」などの願いからよりよい生活条件にも目を向け、植物への親しみをもち、世話をする楽しさや喜びを味わうことができるようになる。さらにその経験から友達や先生、家族へも伝えたいという気持ちも芽生え、その活動を通して次の栽培活動への意欲や期待が高まってくる。

知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
(豊 <mark>かな言葉と表現する</mark> )	( <mark>社会に目を向けよりよく考える</mark> )	( <mark>目標を持って進んで学ぶ</mark> )
	植物を育てながら気付いたり感じたりしたことを、自分なり の方法で表している。	植物を意欲的に育て、その生長に興味・関心をもつ。

ねらい	時数	主な学習活動(児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点	7	評価基準(目指す子どもの姿)
1 たねをまこう 自分が育てたい花を決め、元気 に育つように願いながら、花の種 を植えることができる。	1	1 2年生から引き継いだアサガオの種を提示し、どんな花が咲くのかを想像し、絵であらわしてみる。 「これはなんのたねだろう。」 2 幼稚園や保育所(園)で育てたことのある植物を思い出して出し合う。 「ようちえんでそだてたことがあるよ。」「いえにもさいてるよ。」 3 自分が育てる花を知り、ことばや絵で表す。 4 栽培容器と培養土を用意し、種をまく。	・栽培意欲を高められるように、これまでの栽培経験を思い出させたり、提示物等を準備しする。(意欲) ・栽培活動の過程がわかり、見通しがもてるように、ICT等を活用する。(意欲) ・初めて種と出会った時の思い、種を植える時の願いを言葉や文章で表すことができるよう導く。〈言葉・表現)	<b> </b>	【学びに向かう力・人間性等】 発芽や生長を楽しみにしながら,種まきをしようとして いる。
2 せわをしよう (芽生え~) 自分が育てたい花の変化や生長 の様子に関心をもち、生長に応じ た観察や世話をすることができ る。	2	1 毎日の日課として水やりや観察を行い、絵やことばで表す。 「はやくめがでないかな。」 「めがでたよ。」「どんどんへんしんするよ」 2 アサガオの生長の違いや原因について考える。 「どうしてちがいがあるのかな。「どんなふうにせわをすればいいかな。」 3 よりよい生長に向けての世話に仕方について考え、栽培活動につなげる。	・主体的に日常の栽培活動が継続できるように環境を整え、観察するポイントを示す。(意欲・環境) ・これまでの栽培経験や友だちと比較により、より大きく育てるための世話の仕方を考えさせる。(言葉・表現)・発芽した時の喜び、生長していく変化、植物に合った世話をした後の自分の成長の様子などを意欲的に文や絵で記録できるように場の設定を心がける。(言葉・表現)。・子供の世話や観察の記録を共有できるような環境を設定し、評価する。(自立)		【思考力・判断力・表現力等の基礎】 花の育つ場所、変化や生長について考え、世 話の仕方を工夫している。
3 せわをしよう(開花時期) 自分が育てたい花の変化や生長 の様子に関心をもち、生長に応じ た観察や世話をすることができ る。	1	1 毎日の日課として水やりや観察を行い、絵やことばで表す。 「おおきくなあれ。」「はやくはながさかないかな」 2 咲いた花の数を記録し、さらに栽培意欲をもつ。 「はながさいたよ。3つもさいたよ」「きれいだね。」「まだつぼみがたくさん 3 咲いた花で何かできないかみんなで出し合う。 「ようちえんでもあそんだことがあるよ。」	・主体的に日常の栽培活動が継続できるように環境を整え、観察するポイントを示す。(意欲・環境) ・さらに栽培意欲をもてるように、声を掛けたり、励ましたり、観察記録等を評価する。(意欲) ・幼稚園や保育所(園)などこれまでに栽培した経験や、遊びを活用して学びを広げる。(自立)	•	【学びに向かう力・人間性等】 花が生長する様子や変化に関心をもち、継続 的に世話をしようとしている。
4 せわをしよう(種取り) 自分が育てたい花の変化や生長 の様子に関心をもち、生長に応じ た観察や世話をすることができ る。	1	1 花が咲き終わった後はどうなるのかを想像して考えを出し合う。 「はなのあとはどうなるんだろう」「なにかふくらんでいるよ」「たねはこのあとどうなるんだ 2 種取りをする。 「ちゃいろくなってきた。とってみよう。」「はるにまいたたねといしょだよ」 3 とった種をどうすればよいか考える。 「いくつとれたかかぞえてみよう。どうやってかぞえたらいいかな。「ひとつのはなから	・花が終わった後の観察のボイントを示しながら最後まで 意欲的に世話や観察を継続させる。〈意欲〉 ・種の数を数える際など、幼稚園や保育所(園)などこれまでに栽培した経験や、遊びを活用して学びを広げる。〈自立〉 ・種ができたときの喜び、種のできかたについての気づきなど絵や文などの観察記録から評価する。〈言葉・表現〉	7	【知識や技能の基礎】 育てている花にあった世話の仕方があることに気付いている。
5 みんなに つたえよう 〜こんなことがあったね〜(9月 実施) 花を育てた様子を振り返り、作品 に表したり、友だちと交流したりし ようとしている。	2	1 夏休みが終わり、育てた花がどうなっているか観察する。 2 春から育ててきた様子を振り返り出し合う。 「はるにたねをまいたね」「まいにちみずやりをしたね」「なつやすみはいえでせわをしたよ」 3 これまでの栽培活動を伝え合う方法を考え、発表会をひらく。 「あさがおしんぶんをつくろう」「らいねんのいちねんせいにてがみをかこう」「おうちのひとに 49	・種の採取も済んだ鉢からこれまでの様子との違いを見つけられるよう観察のポイントを提示する。(言語・表現)・多くのことが引き出せるよう、グループやペアで振り返えらせる。(言語・表現)・意欲的に活動できるように、これまでの観察カードを活用したり、ICT等を活用したりして振り替えさせる。(意欲)・意欲的に活動できるように場の設定やグループでの準備や役割分担について支援を行う。(環境)・グループそれぞれの発表についてその都度よかったところを具体的に評価することで、次への栽培意欲へとつなげる。(意欲)		【知識や技能の基礎】 見つけたことや遊んだこと等を紹介しあう活動 のなかで、自分や友だちの良さに気付いてい る。 【思考力・判断力・表現力等の基礎】 見つけたことや遊んだことなどを自分なりの方 法で伝えている。 【学びに向かう力・人間性等】 見つけたことや遊んだことをわかりやすく相手 に伝えようとしている。

## さあ、みんなででかけよう[6月 全8時間)



単元のねらい 安全に気を付けて、遊び場や野原に出かけて行き、みんなで遊びながら、人や自然とふれあ うことができる。また、春の季節を感じることができる。

・国語「ぶんをつくろう」 ・算数「こうえん」

・音楽「うたでなかよしになろう」「うたでさんぽ」

・図画工作「せんせいあのね」

【児童の学びのストーリー】

少しずつ学校生活に慣れ、新しい友だちとのつながりも深まってきた子供達が、 放課後や休日に友達と地域に飛び出していく。仲の良い友達同士で遊ぶだけで なく、クラス全員で「学校以外の身近な場所」へ繰り出して遊ぶワクワク感を味わわせ、同じ場所でも遊ぶメンバーが変わると違うもののように見えることを体感させたい。

知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
(豊かな言葉と表現する)	(社会に目を向けよりよく考える)	(目標を持って進んで学ぶ)
		遊び場は多くの人々が利用していて、いろいろな施設があり、それらが
と楽しく遊ぼうとする。	さがしなどをして、見つけたものや遊んだこと、楽しかった	みんなのものであることや、自然のなかで遊ぶ楽しさに気付いている。
	ことを絵や文やお話や身体全体を使って表現することが	
	できる。	

E 720 %		्रिक्ट	ଚିତ୍ର	ļ									
ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点		評価基準(目指すう								
1 クラス全員で「学校以外の身近な場所」へ出かける計画を立てよう	1	1 放課後や休日に地域で遊んでいる場所の中から、クラス全員で安全に遊ぶことができそうな場所を考え園・広場草原・野山・河原・休耕田・公民館・児童館など) 2 出てきた意見の中から、「安全に気を付けて遊べる所」「2時間で言って帰ってこられる所」など、みんなでて一番よい場所を決める。 3 遊び計画を立てる。	・教科書の挿絵等を参考に「楽しい遊び場は	り、朝の会の	【思考力・判断力・表現力等の びに行くことができる「学校以タ いて適切な場所を考えている。								
2 みんなのあそびばでたのしもう(公園遊び) 安全に気をつけて遊び場に出かけて行き、友達と遊びながら、人や自然と楽しくふれあうことができる。	2	1 遊び場で楽しく遊んだり、探検したりする。 2 遊び計画を元に楽しく遊ぶ。 「なにがみつかるかな」 「どんなあそびをしようかな。」	自然の中で楽しく遊ぶために ・安全面等も考慮して事前に現地に行き、下う。(意欲) ・生命の大切さなどについても丁寧に指導す・自然ならではの遊びやゲームを幼稚園・保証の経験を基にさらに広がっていくように支援すり) ・公園にはどんな施設や看板があるかを話し検後に教科書の施設と比べたりすることで、2束を考えたり色々な人、自然と触れあうことをに導く。(言葉・表現)	る。(自立) 育所(園)で ける。(かかわ 合ったり、探 公園での約	【知識や技能の基礎】友だなら、自然に親しんだり、活動る。								
3 たのしかったことをつたえよう 遊び場で見つけたこものや遊ん だことを自分なりの方法で表現 し、相手に伝えることができる。	1	1 楽しかったことの報告会の準備をする。 2 みんなに伝えたいことを自分なりの方法で発表する。 3 友だちの発表を聞いたり、自分の発表したことを振り返る。 4 もう一度遊び場へ行く計画を立てる。  「みんなにおしえてあげたいな。」	いろいろな表現方法で ・子供たちが主体的に自分の伝えたいことを すい方法で発表できるよう支援する。(ことば ・一人一人の子供たちがうまく発表できるよう ついても指導する。(自立) ・朝の会や終わりの会、休み時間などの日常 でも子供達の気付きを評価する。(言葉・表現	・表現)・に聞く態度に	【知識や技能の基礎】自分だんだことを分かりやすく相手 る。								
1 クラス全員で「学校以外の身近な場所」へ出かける計画を立てよう	1	1 放課後や休日に地域で遊んでいる場所の中から、クラス全員で安全に遊ぶことができそうな場所を考え園・広場草原・野山・河原・休耕田・公民館・児童館など) 2 出てきた意見の中から、「安全に気を付けて遊べる所」「2時間で言って帰ってこられる所」など、みんなでて一番良い場所を決める。 3 遊び計画を立てる。	うに導く。(言葉・表現)	が楽しめるよ	【思考力・判断力・表現力等の活かして、遊びの計画を立てで								
2 みんなのあそびばでたのしも う(公園遊び・草花遊び)		<ul><li>1 遊び場で楽しく遊んだり、探検したりする。</li><li>2 遊び計画を元に楽しく遊ぶ。</li></ul>	自然の中で楽しく遊ぶために ・安全面等も考慮して事前に現地に行き、下	見を十分に行	【思考力・判断力・表現力等を活かし、エ夫して遊ぶこと								
安全に気を付けて遊び場に出か けて行き、友達と遊びながら、人	2	「なにがみつかるかな」	う。(意欲) ・生命の大切さなどについても丁寧に指導す・ ・自然ならではの遊びやゲームを幼稚園・保	育所(園)で									
や自然に楽しくふれあうことができる。										「どんなあそびをしようかな。」 「くさばなでもあそべるよ。」	の経験を基にさらに広がっていくように支援すり)	する。(かかわ)	
3 たのしかったことをつたえよう 遊び場で見つけたこものや遊ん だことを自分なりの方法で表現 し、相手に伝えることができる。	1	1 楽しかったことの報告会の準備をする。 2 みんなに伝えたいことを自分なりの方法で発表する。 3 友達の発表を聞いたり、自分の発表したことを振り返る。 「みんなにおしえてあげたいな。」 50	いろいろな表現方法で ・子供達が主体的に自分の伝えたいことを自 すい方法で発表できるよう支援する。(ことば ・一人一人の子供達がうまく発表できるように ついても指導する。(自立) ・一人一人の子供達の発表の中で小さなよさ 見逃さず評価する。(言葉・表現)	・表現) :聞く態度に	【知識や技能の基礎】遊び場合で遊んだ経験を発表した場合とについて友達に質問した 「学びに向かう力・人間性等 したことなどを紹介し合う活達のよさに気付いている。								

「子どもの姿)

の基礎】クラス全員で遊 以外の身近な場所」につ

どちと仲よく遊びなが 動したりしようとしてい

**♪が見つけたものや遊** |手に伝えようとしてい

の基礎】1回目の遊びを ている。

等の基礎】自然環境 とができる。

**ぶ場に行ったこと**やそ たり, 自分が知らない したりしている。 等】見つけたことや遊 活動の中で自分や友 だいすき なつ (全4時間)

6~7月



学習内容 単元のねらい 合科・関連する教科 ・終業式 地域仲良し会 ・道徳「もりのぷれぜんと」「なんていえばいいのか 夏の季節を活かしてかして、みんなと仲良く遊び、夏の季節の特徴に気付くことができる。 学…(2)(3) 身···(4)(5)(6) 自···(9) 国語「ぶんをつくろう」 ・算数「こうえん」 ・音楽「うたでなかよしになろう」「うたでさんぽ」

【・工里の学 への 人トーリー】 学校や遊び場などでの活動を通して、子供達は学校生活にも慣れ、友達や先生、学校の周りの自然と意欲的に関わろうとするようになってくる。子供達が学校やその周り、また近くの遊び場などで季節の変化を感じ取り、思う存分夏にひたって友達と仲よく遊んだり、楽しい遊びを工夫したり、友達の輪を広げられるようになっていく。ここでの活動や体験から生まれる子供達の感動や気付きを大切にしながら展開していく。また夏休みの計画をみんなと相談しながら立てることで、初めての夏休みを楽しく有意義に過ごすことができる。活動については、身近な自然や自分が関わっている生き物などの春から夏への変化の様子に気付くように働きかけ、子供のつぶやきや思いに共感するよう心がける。また、遊びの中にうまく入れない子供には、教師も一緒に遊ぶ等して、自然や友達との関わりを広げるよう配慮する。

知識や技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
(豊かな言葉と表現する)	(社会に目を向けよりよく考える)	( <mark>目標を持って進んで学ぶ</mark> )
	夏らしい遊びを工夫したり,夏休みの計画を立てたりすることができる。	夏の季節を活かして楽しく遊ぶ。

ねらい	時数   主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)	支援と留意点
I なつを見つけにいこう 交庭の探検を通して、植物の様子の変化や春とは違った生き物 の存在に気付き、見つけたことを まとめることができる。	1 春から様子が変わったもの(桜の木など)の写真を提示する。     どこだろう?他にも、春と様子が変わった所があるのかな?見つけにいきたい 2 校舎周辺をまわり、春からの変化や夏を感じるものを見つける。     桜の花がなくなって、葉が出ている。ありがたくさんいるよ。 3 見つけたものを教室に戻ってカードに書く。 4 カードに書いたものを友達と交流する。     外に出ているだけで太陽が当たって暑いよ。すずしく遊べないかな? 5 探検を通して体感した暑さをもとに、みんなで夏を楽しく遊びたいという意欲を高める。	・春に観察した所を中心にまわることで、季節の変化に気付きやすくする。(意欲) ・活動場所については、子供達の様子が見渡せる安全な範囲の中で、子供が活動するようにする。(自立)
2 みずやつちであそぼう 夏に適した遊びや、土や砂、水 などを使った遊びを工夫して友 達と楽しく遊ぶことができる。	1 暑い夏を楽しく遊ぶにはどんな遊びがいいか考える。     水を使うと涼しいよ。シャボン玉をつくりたいな。どろだんごをつくろうかな。 2 外に出てみんなで考えた遊びを友達と一緒に楽しく遊ぶ。     どうしたら、上手にシャボン玉をつくれるかな。水を流して川をつくろう。 3 活動を振り返り、後片付けをする。     晴れた日に遊ぶのは楽しいな。雨の日はどうだろう?  (4)雨上がりに校舎外に出て、晴れた日との様子の違いを感じさせる。 ※可能なら別日に実施	・土や砂、水遊びではそれらの特性に気付かせるともに、作品づくりでは一人遊びから次第に友達と協力して遊びが広がっていくように支援する。〈かかわり)・子供のアイディアを引き出し、遊びの工夫ができるように教科書の挿絵や写真も適切に活用する。(意欲)・楽しい遊びは互いに友達にも伝えられるような場の設定を行い、個々の遊びが広がるよう支援する。(ことば・表現)・川や山などで遊ぶ際の安全面の約束や、遊んだ後の後片付けなど徹底する。(自立)
3 なつやすみを たのしもう 1学期を振り返り、夏休みのめあ てを担任や家の人と相談しなが ら立て、楽しい夏休みを過ごすこ とができる。また、地域の行事や 身近な自然と積極的に関わると ともに、健康で安全な毎日を過ご すことができる。	1 夏に楽しみなことを出し合う。	・初めての夏休みを安全に楽しく過ごせるように家庭や地域との連携を密にとる。(かかわり) ・夏休みのくらしについて徹底する。(自立) ・子供達が主体的に様々な豊かな体験ができるように、紹介する。(意欲) ・子供一人一人が自分の1学期を振り返る機会とし、交流させる。(ことば・表現)

評価基準(目指す子どもの姿)

・図画工作「せんせいあのね」

【知識や技能の基礎】 校庭の自然や生活の場で春から夏の変化に 気付いている。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

水遊びや土、砂遊びにおいて自分なりの遊び 方を工夫している。

【学びに向かう力・人間性等】

夏の季節のよさを活かして、みんなと楽しく仲 良く遊んでいる。



【思考力・判断力・表現力等の基礎】 安全で健康に生活することを考えて、自分に あった計画を立て、それを表現することができ



		単元のねらい				学習内容	合科•関
【児童の学びのストーリー】			知識や技能の基礎	思考力・判	断力・表現力等の基礎	1	学びに向かう力・
			知識や技能の基礎 (豊かな言葉と表現する)	(社会に目	断力・表現力等の基礎  を向けよりよく考える)		学びに向かう力・ (目標を持って進
ねらい	時数	主な学習活動(児童の思いや意識の流れ)			支援と留意点		評価基準([
	4						
	2					•	
	3		52				

	_
連する教科	4
 人間性等 んで学ぶ)	$\neg$
んで学ぶ)	4
目指す子どもの姿)	
	4

がっこうと ともだち(全13時間) 4~5月

単元のねらい 学校を探検したり、学校で働く人々とかかわったりしながら、学校内に部屋やものとその役割など学校で働いている

クレスの仕事に与ける。中心も学校の一員であることを感じて楽しく安全に学校生活を送ることができるよう

を向けることができるようになる。

合科する教科や単元名 をここに記入しましょう。

学···(1) ·道徳 4(1)(4)

学習内容

ていおうかな」「どうぞよろしく」 てりずす うとう」 なたよし」「すなやつちでねんど」

合科・関連する教科

つかった運動遊び」

りかうカ・人間性等

持って進んで学ぶ)

【児童の学びの 学校生活に慣れ 経験から、「知る う」と呼びがける 達に教えたくて、 検したい」と思い で必要なルール

どんな子ども達が、学習対象や学習材にに出会うことで、 どんな思いや願いをもつか。そしてどのような活動をす ることで、どんな気付きが生まれるのか。活動を進める (繰り返す)中で、子供達はどんな姿を見せるようになっ てくるか。 教師の意図や願いも含め、単元をどう構想し たかがイメージできるように書くとよいでしょう。

知識や技能の基礎 (豊かな言葉と表現する)

校探険を通して、学校での生活 いろいろな人や施設と関わってい とが分かる。

(社会に目を向けよりよ ・学校の施設の様子を知り、学校生 活をささえている人々の思いや願い

思考力・判断力・表現力

について考えることができる。

・学校の施設を通して、先生友達などに親しみや関心をもっ て関わり、楽しく生活しようとする。

ねらい	時数	主な学習活動 (児童の思いや意識の流れ)		支援と留意点		] [
1 ゲーコン・ハイ・スース・イン・イン・スース・イン・スー	4	1 学校で行ってみたい場所NO1を決める。(いってみたい場所はどこか発表し合う。) 【学校探険への意欲付け】 2 行ってみたい場所NO1から学校全体を回り、他学年の教室、特別教室やいろいろな特徴ある場所の存在と、そのおおよその位置を知る。  ここは何のお部屋かな? 先生の部屋はどこだろう?学校中を探検してみたい! 3 その場の特徴あるものを見つけたり、体験したり、関係ある人に話を聞いたりする。 4 友達の話を聞いて気になった場所に行ってみる 本のお部屋  ここには、子どもの思いや意識の流れが分か と見てみたい!	・学り伝い支や	中カリキュラムで 作成した、教師 のかかわりや環 境づくりの視点を 意識して書くとよ いでしょう。	が こ ナ リ	
2 こうていもたんけんしてみよう 校内の動植物とふれあったり、 校庭の遊具や施設などを正しく 使ったりすることができる。	4	1 校庭での 場所をさがす 2 安全に気 て「校庭 の ①思いや願い → ②活動や体験 → ③感じる・考える → ④表現(伝える) → (① ~ ④ が繰り返す単元構想・・・小単	いり	・思いや願いが 高まるよう、(教 師の意図した気 付きや活動に導 くために)どんな 環境を用意する	a	
3 たんけんしたことをみんなではなそう 見つけたものや気付いたことを 教え合うことを通して、学校への 愛着や学校生活への自信を深 めることができる。	2	<ul> <li>1 かきため 欲を高める。</li> <li>2 思い出を 3 話し合い 振り返る(自分への気付き、自信)</li> <li>☆ 次の活動への意欲 家庭科室:</li> </ul>	・学表にすらでに夫	・気付きの質が 高まるよう、教師 はどのように関 わるか。どんな表 現をさせるか	で,を「、」」	
4 がっこうのまわりをあるいてみよう 見つけたものや気付いたことを 教え合うことを通して、学校への 愛着や学校生活への自信を深 めることができる。	3	1 学校マップを振り返り、学校の周りにも行ってみたいという意欲を高める。 2 いくつかのルートに分け、その通学路を使う子どもが好きな場所を説明しながら学校の近くを歩いてみる。 3 学校探険の時と同様、マップにカードを置きながら、お気に入りになった場所、がんばったことを発表していく。  こんど〇〇の場所にいってみたいなあ。〇〇小学校のことがもっと好きになったみたい!!	· と 活ど前・接 で設	・どこで何に気を 付けるか、何を考 えさせるか	12. ) 手を	

#### 評価基準(目指す子どもの姿) | 識や技能の基礎】 校内の施売やしたに関心をせっているいろな場所へ行 興 評価基準として、め 礼儀正し ざす子供の姿を記 屋の目的な せばと、思います。 屋の目的. 3観点でのB規準を 参考に考えてみま しょう。 いろな場所 行 ている。

植物 したりしここと ないに向かう力・人間性等】

庭にあるものやその場門 動植物とのかかわり方やもの 使い方に気付いている。

や施設を使

#### 口識や技能の基礎】

つけたもの・こと・人のこと。先生や友だちに意欲的に話 とり,友だちの話を聞こうとしたりしている。

は考力・判断力・表現力等のは礎】

つけたもの・こと・人のことをわかりやすく伝えるために言 や動作で発表している。

びに向かうカ・人間性等】

校のなかの場所や人、部屋にあるものや部屋の目的、 庭にあるものや自然. 場所ごとのマナーについて気いて る。

#### 識や技能の基礎】

学路にある自然や人々、安全を守るための施設などに 付く。

【考力・判断力・表現力等の基礎】

んなで歩いて発見したことや,自分の地域のお気に入り 自然や人などについて、わかりやすく伝えるために言葉 動作で発表している。

どびに向かう力・人間性等】

学路の自然や人、安全を守る施設などに関心をもってさ しながら、みんなで歩いたり、自分の地域を見直したりし いる。

# 資料 6

幼小交流体験活動例

# 資料6

# 令和○○年度 幼小接続「いちご摘み」

令和○○年○月○日

2 場所 ○○幼稚園

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○組(年長児)○○名

○○小学校 1年生 ○○名

年長の秋にみんなで植えたいちごが、春に実をつけたので、1年生になったぼくたちと年長さんといっしょに収穫したよ。

4 ねらい

幼稚園ねらい	<b>'</b>
・1年生と触れ合いながら、いちごを摘むことを喜ぶ。・秋には自分たちがいちごの苗を植えて来年度1年生になった時にいちご摘みにくることに期待をもつ。	持ちをもつ。

5 タイムスケジュール

時間〔場	<b>江</b> 卦 由 宏	指導者の動き(留意点)	旧本 国旧	Holm hote
****	活動内容	拍导有の期さ(留息点) 	児童・園児	物等
所〕	#: ^	/L a たよう/ロミッ	/ 1 1 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1	
10分	・集合	<ul><li>・<u>幼</u>1年生を迎える。</li></ul>	<ul><li><u>幼小</u> 時間がきたら、行動す</li></ul>	
	・移動	・小中間休みが終わったら、	る。	
		昇降口前に速やかに集合し移		
		動できるように、整列して移		
		動させる。		
5分	・あいさつ	・幼小全体で挨拶をして校長	幼小挨拶をして校長先生のお	
		先生の話を聞かせる。	話を聞く。	
			小いちごつみについて話をす	
			る。	
15 分	・いちご摘み	<ul><li>小スムーズに2~3人組が</li></ul>	<ul><li>・ 効小 1 年生 2 ~ 3 人 + 年長</li></ul>	いちごプラ
10 ),	, 2 C 199.	作れるように事前にグルーピ	児1人のグループに分かれる。	ンター
		ングをしておく。		
		・幼混み合わないようにプラ	・幼小一緒に赤くなっている	
		ンターの間隔を広げておく。	いちごを見つけて摘む。	度
		・幼小全員がいちごを摘める	・幼小摘んだいちごを一緒に	
		ように声かけをする。	洗って汚れを落とす。	
		・幼小・雨天の場合は屋根の	・幼小テラスに座って挨拶を	
		ある所にプランターを移動し	して一緒に食べる。	
		ておく。		
		・雨天時はホールで食べる。	・幼小お皿を一緒に片付ける。	ゴミ袋
		・幼小片付ける。		
15 分	<ul><li>・交流をする</li></ul>	・幼小いちご摘みをしたグル	・幼小幼小一緒に体操をする。	ラジカセ
	7 7 10 2 7 2	ープでいちごリレーをさせ	<ul><li>幼いちご摘みをしたグルー</li></ul>	
<b>建</b>	-	る。	プの1年生を探す。	
	- MA -	<b>₩</b>	- / · / · / · / · / · / · / · / · / · /	いちごの模
			プの年長児を探し呼ぶ。	型
		<b>・</b> 小ルールを分かりやすく説	・小ルールを分かりやすく説	<b>生</b>
	8	明させる。		
		明させる。	明する。	
	AND THE RESERVE AND ADDRESS OF THE PARTY AND A		・年長児の走るスピードにあわ	
			せて一緒に走る。	
			・幼小挨拶をする。	
	・あいさつ	・幼小園長先生の話を聞いて	・小小学校に戻る。	
		全体で挨拶をさせる。		

※ 事前に幼稚園から小学校へ招待状を、事後に小学校から幼稚園にお礼状を送っている。 いちごは1年生が年長時に植えたものを収穫している。

5

# 令和○○年度 幼小接続「給食体験」

令和○○年○月○○日

2 場所 〇〇小学校 〇年生各教室

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○○組(左

年間で複数回実施すると、1回目は随分と時間がかかっていた交流も互いに慣れて、落ち着いて交流することができるようになるよ

口

### 4 ねらい

幼稚園ねらい	小学校ねらい
・5年生の配膳の様子を見ることで、給食の準備の	・園児の発達段階を考えて、園児が安心して給食体
仕方を知る。	験ができるように準備を進める。
<ul><li>◆ 5年生に教えてもらいながらできる所は自ら進ん</li></ul>	・園児が小学校に親しみ、入学への期待が高まるよ
でやってみようとする。	うに和やかな雰囲気で会食を進めることができる。
• 5年生に親しみの気持ちをもつとともに、小学校	
入学への期待を高める。	

# 5 タイムスケジュール

時間	活動内容	指導者の動き(留意点)	児童・園児の動き	準備物 等
	移動	・対引率 ・小班ごとに給食が食べられるように机と椅子を移動させておく。 ・小一つ一つの行動や食事に時間がかかると予想されるので、早目に準備を始めさせる。	•12:05 に始められるよ うに、5 年生の各教室 に移動しておく。	園児用 椅子
5分	グル ープ 分け	<ul><li>・幼小スムーズにグループに入ることができるように 声かけをする。</li><li>・移動や着席がしやすい様にグループ名と個人名など 黒板等に示しておく。</li></ul>	・小園児担当の児童が自分の班の位置に園児を連れて行く。	座席表
15分	給 食配膳	・小幼 衛生面に配慮し、園児が安全に給食配膳できるように目配り、気配りをする。	・小園児といっしょに 机上の準備や手洗い等 を行う。 ・小園児の発達段階を 考えて、一緒に給食配膳	
35 分	給 食 開始	あいさつ ・幼不安のある幼児のそばに付き、寄り添うようにする。 ・小自己紹介等をさせながら、楽しく和やかな雰囲気で会食できるような雰囲気作りを心がけさせる。	を行う。 ・小 園児の食べられる量について個々に声かけをするなど配慮する。 ・小 自分たちから順番に自己紹介をする。 ・ 幼児童をまねて自己紹介する。	
		・小園児が小学校に親しみをもち、来年度の入学に希望がもてるように、早く食べ終わった園児のために読み聞かせなどを考えさせておく。	・小食べ終わった後も、 園児と楽しく関わりを もつことができるよう 読み聞かせをするなど の工夫をする。	紙芝居、絵本等
5分	後片付け	<ul><li>・どこに何を入れるのか等を見て分かるように支援する。</li><li>・あいさつ</li></ul>	<ul><li>・小 園児と一緒に後 片付けをする。</li><li>・ 切お礼のあいさつを する。</li><li>・ 切幼稚園に戻る。</li></ul>	
		· 引率 55		

# 令和○○年度 幼小接続「絵本の読み聞かせ」

5□○○年○月○○日

2 場所 ○○小学校 5年生各教室

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○○組(年長児)○○名

わたしたちの好きな絵本を事前に聞いてくれたり、お兄さんやお姉さんが小さい頃に好きだった絵本を選んでくれたりしててたのしかったよ。

### 4 ねらい

幼稚園ねらい	小学校ねらい
・5年生に読み聞かせをしてもらうことで小学校入 学への期待や親しみの気持ちをもつことができる。	・園児に分かりやすく、情景を思い浮かべられるように読み聞かせをしたり、園児達が安心して小学校で過ごせるように声をかけたり、世話をしたりすることができる。

# 5 タイムスケジュール 注動内穴

時間	活動内容		動き(留意点)	児童・園児の動き	準備物等
	移動	・ <mark>幼</mark> 引率 ・ <u>小</u> 班ごとに活動 と椅子を移動させ	動しやすいように机 tておく。	・時間に始められるよう に、5年生の各教室に移動 しておく。	園児用椅子
3分	あいさつ	とができるように	こグループに入るこ ご声かけをする。 記置を黒板等に図で	・小園児担当の児童が自分の班の位置に園児を連れて行く。	座席表
	自己紹介		P3-570 C	<ul><li>・小代表児童が挨拶をする。</li><li>・小自分たちから順番に自己紹介をする。</li><li>・幼児童をまねて自己紹介する。</li></ul>	
15 分	読み聞かせ	も参加できるよう るように、問い 工夫を準備させて ・ 効落ち着いて終 言葉かけをする。 ・ 幼保育者も一	会本を見られるよう 諸に絵本を見て、園 を共感し、楽しい雰	・小分かりにくい言葉や場面では補足を入れて説明したり、質問したりする。 ・小園児も参加できるようにクイズを出したり、声に出させてみたりする。	絵本 (各班2冊)
2分	ことば遊び クイズ しりとり お絵かき など			・小読み終わった後も、早 口ことば遊びやクイズを して、園児と楽しく関わり をもつことができるよう 工夫する。	お絵かき用の紙・ペン等
	あいさつ	・あいさつ		・小代表児童が挨拶をする。 ・効お礼のあいさつをす	
		・引率	56	る。 ・ <mark>幼</mark> 幼稚園に戻る。	

# 令和○○年度 幼小接続「おもちゃづくり」

年 月 日

2 場所 〇〇小学校 体育館

3 対象園児 ○○幼稚園 ○○組(年長児)○○名 ○○保育所

も教えてあげようという意欲をもったりする。

4 ねらい

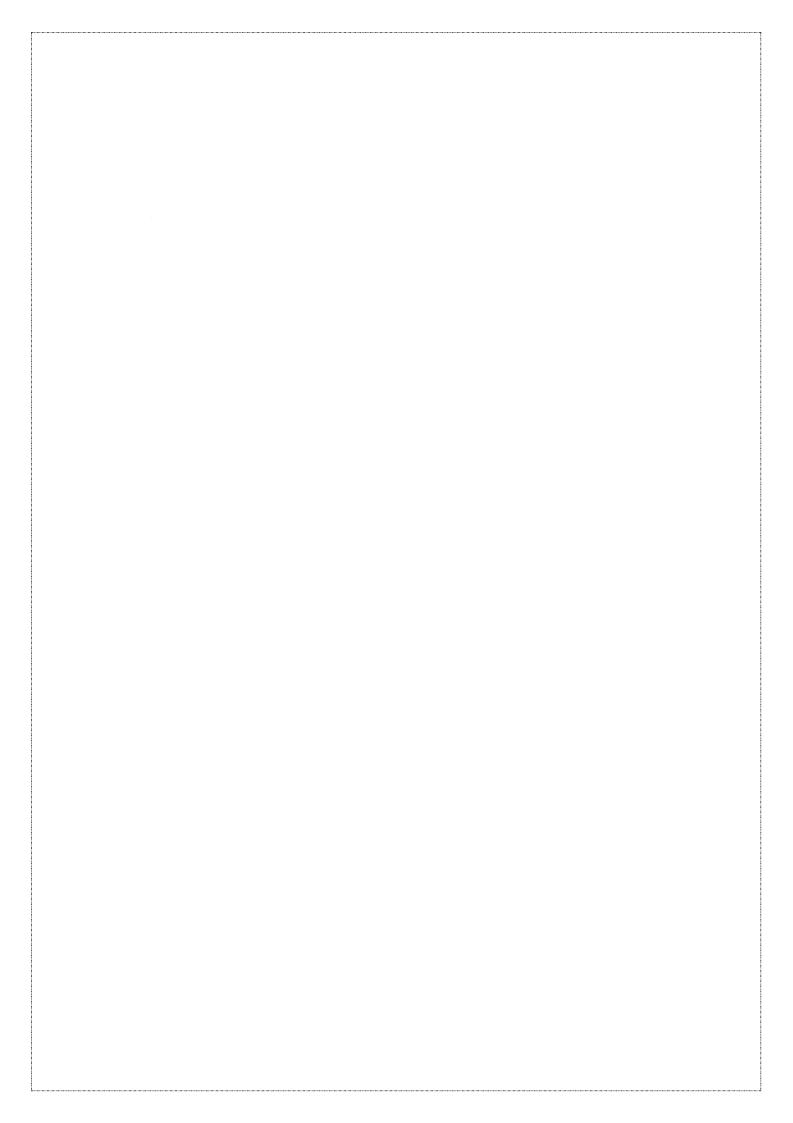
お兄さんやお姉さんに楽し い遊びを教えてもらって、さ っそく保育所でもやってみ たよ。年中児さんや年少児さ んにも教えてあげたよ。

幼稚園・保育所のねらい	んにも教えてめりた。
・2年生におもちゃの作り方を教えてもらい、できたおもちゃで一緒に遊ぶことにより、小学校児童への親しみの気持ちと、小学校入学への期待をも	ところは、手伝っての
つ   ・園に持ち帰って再度遊んだり、年中児、年少児へ	

# 5 タイムスケジュール

時間 [場所] 活動内容		指導者の動き(留意点)	児童・園児の動き	準備物等
	• 移動	・ <mark>幼</mark> 引率 ・ <u>小</u> グループごとに材料など を分けておく。	・予定時刻に始められるように、体育館前に移動して おく。	入場用のアーチ
10 分	・あいさつ	・ <u></u> 切事前に決めておいた番号 のところに並ばせる。	<ul><li>・小代表児童が挨拶をする。</li><li>・小今から何をするのか、</li><li>説明をする。</li></ul>	
30 分	「新聞紙けんだま」の制作	・小・幼 正しく作れているか、 見て回り、困っているグルー プヘアドバイスをする。 ・ 小園児に活動させられるよ うに、児童が手を出しすぎな いようにさせる。 ・ 小当日休みの園児の分も制 作させ、持って帰ってもらえ るようにする。	・小新聞紙けん玉の作り方を説明しながら、園児と一緒に制作する。 ・幼児童に作り方を教えてもらいながら、制作する。	新聞紙 9 枚 輪ゴム 2 本 タコ 糸 1 本 (90cm) かざりの色紙 セロテープ のり
10分	新聞紙けん玉 であそぶ	・ <u>小・幼</u> 時間内に終わっていないグループへのフォローをする。	小・幼作った新聞紙けん玉で一緒に遊ぶ。 小遊び方をわかりやすく 教える。	
5分	・あいさつ	・小時間になったら、はじめの隊形に並ぶように時間を意識させて、自分達で行動できるようにさせる。	・小代表児童が挨拶をする。	
	・解散	・幼引率、園に戻る	<ul><li>小お見送りのアーチを作る。</li><li>幼幼稚園に戻る。</li></ul>	退場用のアーチ
		57		

			·n 年度		<b>;</b>	<u> </u>	
		11 /	<u> </u>	<u> </u>	<u>.</u> .		令和○○年○月○日
1	日時	令和○○年○	月〇〇日(〇)	○時○○分~○□	時○○分		
2	場所	○○幼稚園					
3	対象園児		○○組(年長児)	) 〇 〇 名			
		○○小学校(	<b>○</b> 年生	○○名			
4	ねらい						
		幼稚園ネ	<b>a</b> らい		1.	小学校ねらい	
5	タイムスケ	ジュール					
	時○分	活動内容	指導者の動	動き(留意点)	児童・	園児の動き	準備物等



# 幼小接続 交流シート

		令和	年	月	日(	)
活動内容	(			)		

	保育所(園)・こども園・幼稚園(幼児)	小学校(児童)		
ねらい				
指導場面における配慮事項				
活動後の気づき・反省				
成果				
課題				

# おわりに

本市では、これまでも隣接した立地条件を活かして、保幼小の連携については体験活動を中心に行われてきました。そのような中、幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂に伴い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化・共有化が図られ、また、新小学校学習指導要領におきましても、生活科を中心に、一貫した学びの充実が求められるようになったことから、幼小の接続期に焦点をあて、「幼小接続カリキュラム」を作成することとなりました。

幼児期の教育と小学校教育のそれぞれが求められている目的と役割を踏まえ、幼児期に育まれた力を小学校の学習に活かすための「アプローチカリキュラム」や「スタートカリキュラム」、実践事例集に、各校園所が実態に応じたアレンジを加え活用できるよう作成を進めてまいりました。今後もバインダー方式により、実践事例を更新・積み上げていくことで充実を図りたいと考えております。

後になりましたが、今回の作成にあたっては、各保育所・幼稚園・小学校の先生方には、保育・授業公開や資料収集等、何かとご協力いただきましたこと、この場を借りましてお礼申し上げます。

平成30年3月



# 幼小接続カリキュラム作成委員会

委員長 田辺東小学校 校長 小長谷 直樹

副委員長 田辺東幼稚園 園長 眞下 佐織

三山木保育所 所長 武藤 伸子

薪小学校 教務主任 鐘 築 栄 滋

田辺小学校 教務主任 南部 智彦

三山木小学校 教諭 福島 由喜

河原保育所 所長補佐 吉川 明子

大住幼稚園 教頭 浅川 美智子

三山木幼稚園 教頭 松浦 尚子

事務局 教育委員会 総括指導主事 中井 達

指導主事 伊家京子

指導主事 芹井 利子

# 幼小接続カリキュラム

平成30年 3月 発行

令和 5年10月 改訂

京田辺市教育委員会

T610-0393

京都府京田辺市田辺80

TEL 0774-64-1325

FAX 0774-64-1390